

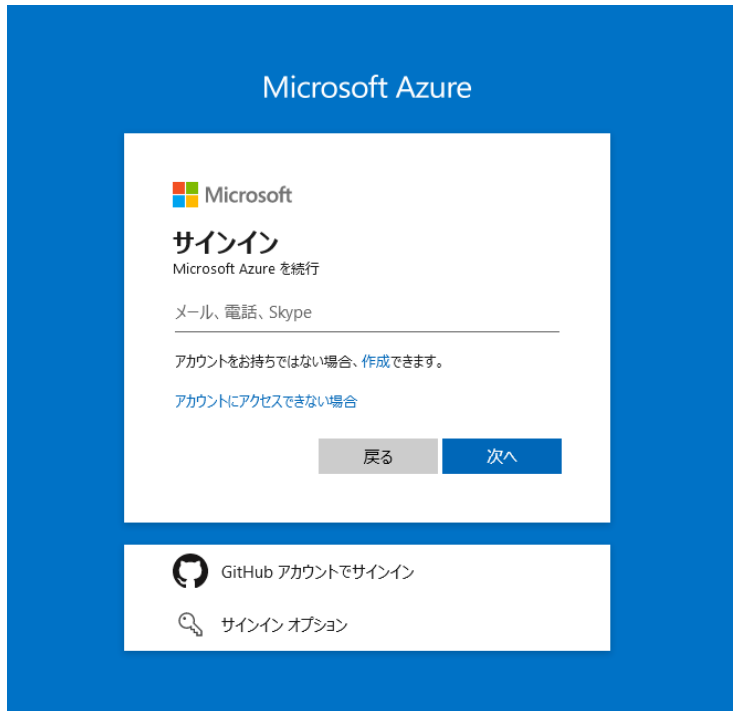


【J-MOTTO グループウェア】

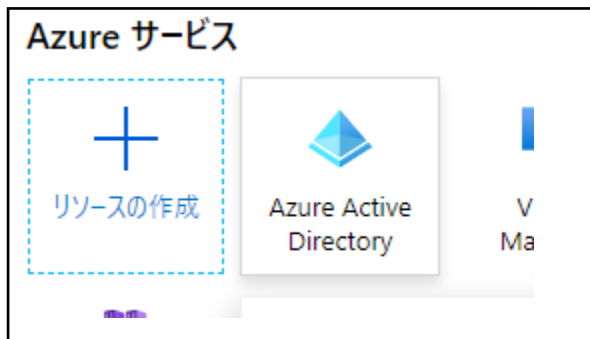
Microsoft365 連携

設定変更手順書

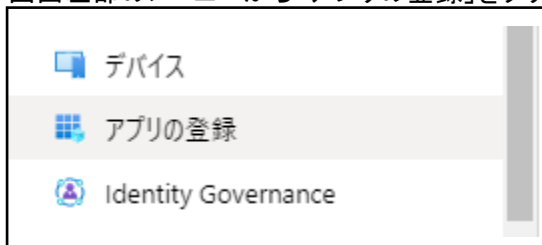
- ① お持ちのMicrosoft365の管理アカウントで、ブラウザからAzureにサインインします。



- ② 「Azure Active Directory」をクリックします。



- ③ 画面左部のメニューから「アプリの登録」をクリックします。



④ ご利用中のMicrosoft 365連携で使用しているアプリを選択します。

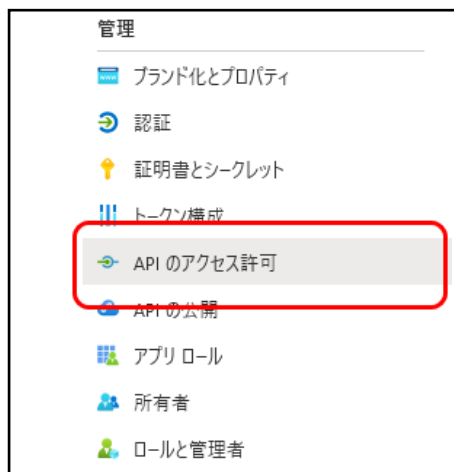
すべてのアプリケーション 所有しているアプリケーション 削除されたアプリケーション

🔍 表示名またはアプリケーション(クライアント)IDを入力し始めると結果がフィル... + フィルターの追加

4個のアプリケーションが見つかりました
表示名 ↑

	アプリケーション(クライアント)ID	作成日 ↑↓	証明書とシークレット
49	5ec1	22/9/2	🟢 現在
MI	66b2	22/7/15	🟢 現在
MI	550b	22/5/24	🟢 現在
上田	Office365連携	22/10/11	🟢 現在

⑤ 「API のアクセス許可」メニューをクリックします。



⑥ 「+アクセス許可の追加」ボタンをクリックします。

構成されたアクセス許可

アプリケーションは、同意のプロセスの一環としてユーザーが管理者からアクセス許可が付与される必要すべてのアクセス許可を含める必要があります。[アクセス許可と同意に関する詳細情報](#)

+ アクセス許可の追加 ✓ 株式会社ネオジャパン に管理者の同意を与えます

API / アクセス許可の名前	種類	説明
▼ Microsoft Graph (1)		
User.Read	委任済み	Sign in and read user profile
▼ Office 365 Exchange Online (1)		
Calendars.ReadWrite.Shared	委任済み	ユーザーと共有カレンダーの読み取

- ⑦ 「所属する組織で使用している API」タブを選択後、「API 名またはアプリケーションIDを入力します」の入力欄に、「Microsoft Graph」を入力して検索後、選択します。

API アクセス許可の要求

API を選択します

Microsoft API 所属する組織で使用している API 自分の API

API を公開するディレクトリ内のアプリは、以下のとおりです

名前	アプリケーション (クライアント) ID
Microsoft Graph	00000003-0000-0000-c000-000000000000

- ⑧ アプリケーションに必要なアクセス許可の種類で「委任されたアクセス許可」を選択します。

API アクセス許可の要求

< すべての API

 Microsoft Graph
<https://graph.microsoft.com/> [ドキュメント](#)

アプリケーションに必要なアクセス許可の種類

委任されたアクセス許可

アプリケーションは、サインインしたユーザーとして API にアクセスする必要があります。

アプリケーションの許可

アプリケーションは、サインインしたユーザーなしで、バックグラウンドサービスまたはデーモンとして実行されます。

- ⑨ 「アクセス許可を入力し始めると、これらの結果がフィルター処理されます」の入力欄に「calendars」を入力後、「Calendars.ReadWrite.Shared」にチェックを入れます。

アクセス許可を選択する すべて展開

管理者の同意が必要 列には、組織の既定値が表示されます。ただし、ユーザーの同意は、アクセス許可、ユーザー、アプリごとにカスタマイズできます。この列には、ご自分の組織や、このアプリが使用される組織の値が反映されていない場合があります。 [詳細情報](#)

アクセス許可	管理者の同意が必要
▼ Calendars (1)	
<input type="checkbox"/> Calendars.Read Read user calendars	いいえ
<input type="checkbox"/> Calendars.Read.Shared Read user and shared calendars	いいえ
<input type="checkbox"/> Calendars.ReadWrite Have full access to user calendars	いいえ
<input checked="" type="checkbox"/> Calendars.ReadWrite.Shared Read and write user and shared calendars	いいえ

⑩ 「アクセス許可の追加」ボタンをクリックします。



「アクセス許可」が終了すると、「APIのアクセス許可」画面になりますので、追加したアクセス許可が表示されていることをご確認ください。

構成されたアクセス許可

アプリケーションは、同意のプロセスの一環としてユーザーが管理者からアクセス許可が付与されている場合、API を呼び出すことが承認されます。構
必要なすべてのアクセス許可を含める必要があります。[アクセス許可と同意に関する詳細情報](#)

+ アクセス許可の追加 ✓ 株式会社ネオジャパン に管理者の同意を与えます

API / アクセス許可の名前	種類	説明	管理者の同意
▼ Microsoft Graph (2)			
Calendars.ReadWrite.Shared	委任済み	Read and write user and shared calendars	いいえ
User.Read	委任済み	Sign in and read user profile	いいえ
▼ Office 365 Exchange Online (1)			
Calendars.ReadWrite.Shared	委任済み	ユーザーと共有カレンダーの読み取り/書き込み	いいえ

アクセス許可とユーザーの同意を表示および管理するために、[エンタープライズ アプリケーション](#)をお試しください。

※API のアクセス許可を更新するため、「Microsoft 365 でログイン」ボタンによるログイン時に、「要求されているアクセス許可」を「承諾」するダイアログが表示される可能性があります。ダイアログが表示された場合は、「承諾」を行ってください。



※以降の作業は、2022/11/19 のアップデート後に行って頂くようお願い致します。（以前にアクセスしてもご利用はできません。）

⑪ シングルサインオン用 URL のアドレスが一部(下記色がついた箇所)変更になります。変更後の URL でアクセスしていただくようお願い致します。

<既存>URL 例:

```
https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/authorize?response_type=c  
ode&resource=https://outlook.office365.com/&client_id=a1234567-1234-ab56-  
ab12-a1234567890b&redirect_uri=https://gws49.j-motto.co.jp/cgi-bin/  
JM1234567/zo365connect.cgi
```



<変更後>URL例:

```
https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/authorize?response_type=c  
ode&resource=https://graph.microsoft.com/&client_id= a1234567-1234-ab56-  
ab12-a1234567890b&redirect_uri=https://gws49.j- motto.co.jp/cgi-  
bin/JM1234567/zo365connect.cgi
```

以上で設定は終わりになります。